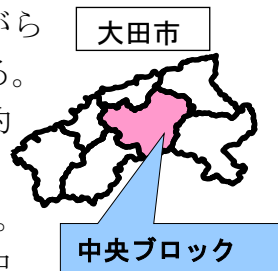


1 中央ブロック地区の概要

大田市立中央公民館は市の中心部に位置し、商業地域である大田町と農村・山村地域である川合町、久利町、大屋町の4つの町がブロック内にあり、各町にあるまちづくりセンターと連携しながら各種事業に取り組んでいる。

ブロック内の人口は、約12,100人で、市の人口の33%を抱える地域である。その中には、高校1校、中学校1校、小学校3校があり、児童・生徒数の合計は約1,470名である。



2 事業の趣旨

(1) 地域の課題

ア 地域活動参加者の高齢化、若者の流出、担い手不足が深刻化している。また、世代間のつながりの希薄化や若者の社会参画の場がない、若い世代の意見が反映されにくいなど、次世代への継承が硬直化している。

(2) 現状

ア 大田市内の中高生を中心に、平成25年度に結成された地域貢献活動グループ「大田 JO いんつ♪」の活動は4年目をむかえ、これまでは地域のイベントへの出店等が中心であったが、メンバーの活動意欲の向上、地域住民の認知度等、少しずつではあるが成果が上がってきた。

イ 一方、大きな課題として「やらされる活動」から「メンバー自らが考え主体的に取り組む活動」へと転換していく必要がある。

(3) 「セカンドステージ」のねらい

ア 青少年や若者が、主体的に地域活動やまちづくり事業に参画できる環境を整備するとともに、地域総がかりで次世代を担う若者を育てる気運を高めながら“青少年の健全育成と協働による活力あるまちづくり”を目指す。

イ 活動の幅を広げ、若者の意見を地域づくりに反映させていくための気運を高めていくことで、世代を越えて共に動き出す地域住民を増やしていく。

3 具体的な取組内容

大田のよさや課題を知る「学びの場」と課題解決につながる「実践の場」を設けることで、意欲ある次世代の担い手の育成を目指す。

(1) 定例ミーティングの「学びの場」

ア 毎月の「しまね家庭の日」を利用し、メンバーが主体的に活動の企画・立案などを行った。



(定例ミーティング)



(大学生&高校生&中学生
～楽しい仲間～)

イ 島根大学1000時間体験学修に登録した学生が、サポーターという立場で話し合いに参加し、活動の支援を行った。

(2) 先進地視察等による「学びの場」

ア 「青少年育成県民会議50周年記念大会」におけるパネルディスカッションで

は、大田 JO いんつ♪ サポーターがパネラーとして参加。他のメンバーは応援と併せ、先進地グループの事例を学ぶ機会となり、新たな取組につながる貴重な体験となった。



イ 平成 29 年で世界遺産登録 10 周年を迎える「石見銀山遺跡とその文化的景観」について、ふるさとの良さを再認識するため、大森町内での現地研修を行った。

(3) 市への思いを語り合う「実践の場」

ア 大田市への思いなどを語り合う場として、中高生と若手市議会議員との「トーク会」を開催。テーマは「大田市の課題・大田の魅力再発見」とし、住みたい素敵な地域をめざしてみんなで何ができるかを話し合った。



(トーク会)

イ 当日傍聴された地域住民と大田 JO いんつ♪ のメンバーとの意見交換の場を最後に設け、参加者全員が熱く語り合う「拡大トーク会」へと発展した。

ウ 市議会議員への依頼から当日の運営に至るまで、メンバー主導で行った。



(市議会議員と大田 JO いんつ♪)

(4) 情報発信を行う「実践の場」

ア 市民の祭り「天領さん」の中で『お化け屋敷』を企画し、事前の準備から当日の運営全てをメンバーが担当し、親子連れや子どもたち約 800 名の来場があった。

イ 大田中央ブロック「お芋博覧会」

「お芋博覧会」はメンバーがとても楽しみにしているイベントで、サツマイモフライドポテトの販売や中高生喫茶、活動紹介パネルの展示等で情報発信を行った。



(サツマイモフライドポテト販売と中高生喫茶)

4 評価と成果

(1) ミーティングで中高生メンバーと大学生サポーターとが、共に話し合いを重ねたことで関係が深まり、活動に対して今までの受け身から主体的な姿勢へと変化した。

(2) 「トーク会」の開催で市議会議員や地域住民の方に、中高生の思いを直接聞いてもらうことが出来、まちづくりに新たな風を起こすことができた。

5 今後の課題と見通し

(1) 大田 JO いんつ♪ に参加してくれる新メンバーの確保と主体的な活動の継続。

(2) 20 代後半から 30 代の若者の活動への参画。

年々大田 JO いんつ♪ の認知度が上がり、活動にも関心を持ってもらえるようになった。「中高生が頑張るなら自分たちも！」との声も聞かれ、地域住民を動かすきっかけとなっている。この地道な活動こそが、若者による地域づくりへの第一歩であり、新たな仲間を増やしながらか、引き続き活動を行っていきたい。



(文責：公民館主事 伊藤裕子)